



作品タイトル

えをところを、
えをとめを

作者

青木 あお吉

形式

漫画

作品元の地名

淡路島



●作者について

≫自己紹介

会社員をしながらオリジナルの漫画を描いています。
オカメインコ（♀・7歳）と暮らしています。

≫応募のきっかけ

里中満智子先生に自分の作品を読んでもらいたいと思って、応募しました。

●作品について

≫作品の解説

国生み神話に自分なりの解釈を交えて描きました。

≫思い・受賞コメント

入賞できて大変光栄です。
個人的に気に入っている作品のため、いろいろな方に読んでいただけたら嬉しいです。

≫審査員コメント



里中先生

きっと何度も練り直して無駄のないセリフ、
場面にたどり着いたのだと思う、
自然に入っている作品。

神話の深い解釈を通じて
シニアの揺れる心情を見事に活写。



中村先生



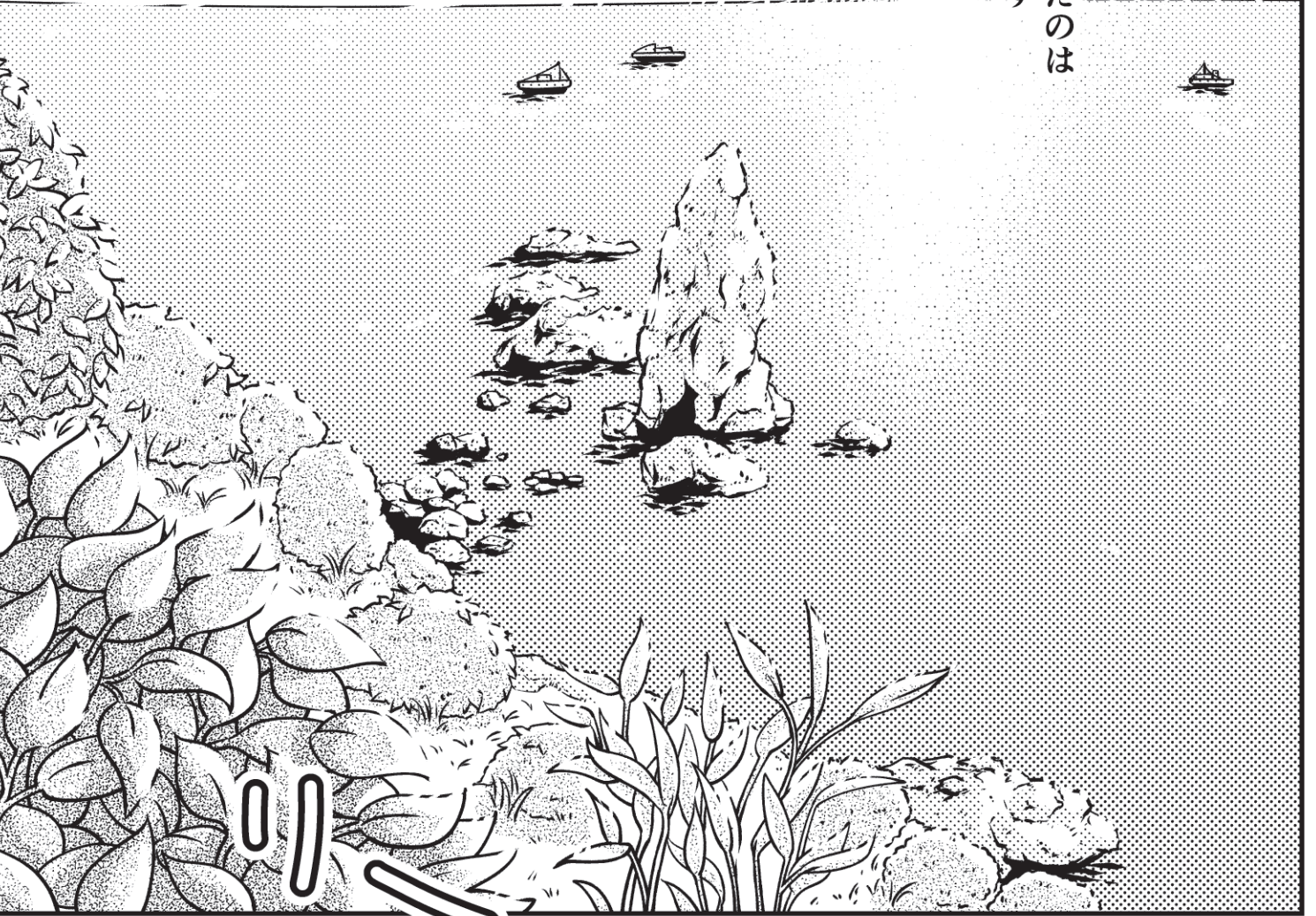
吉村先生

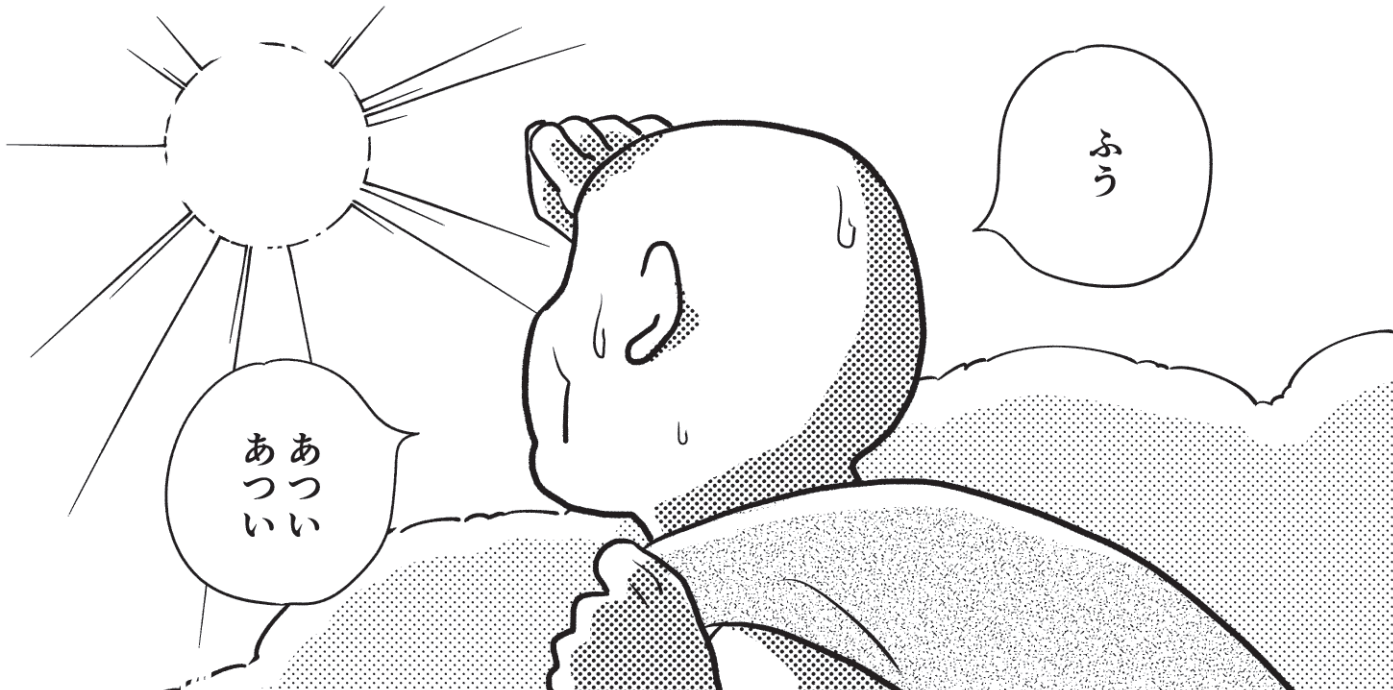
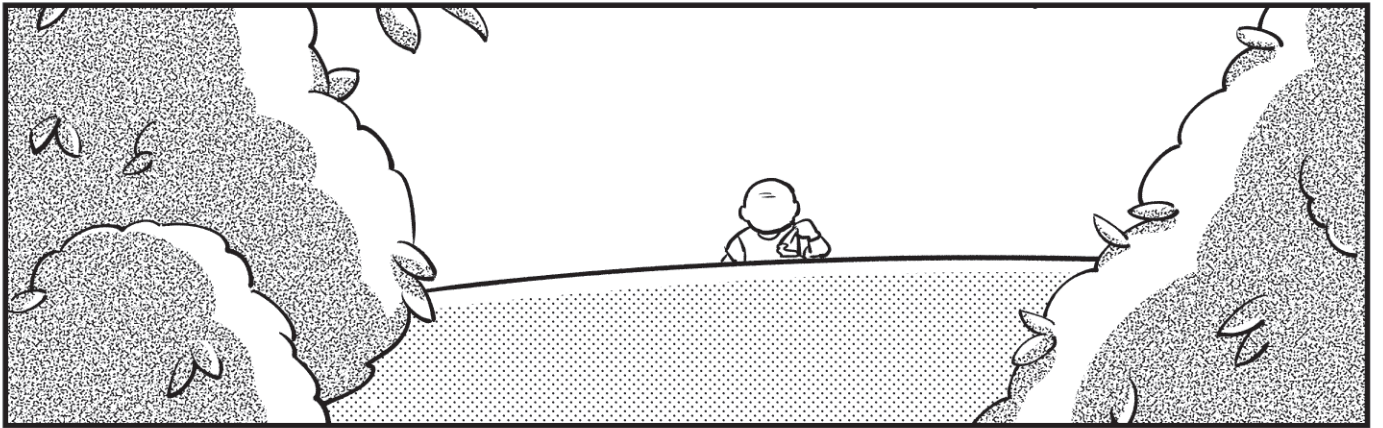
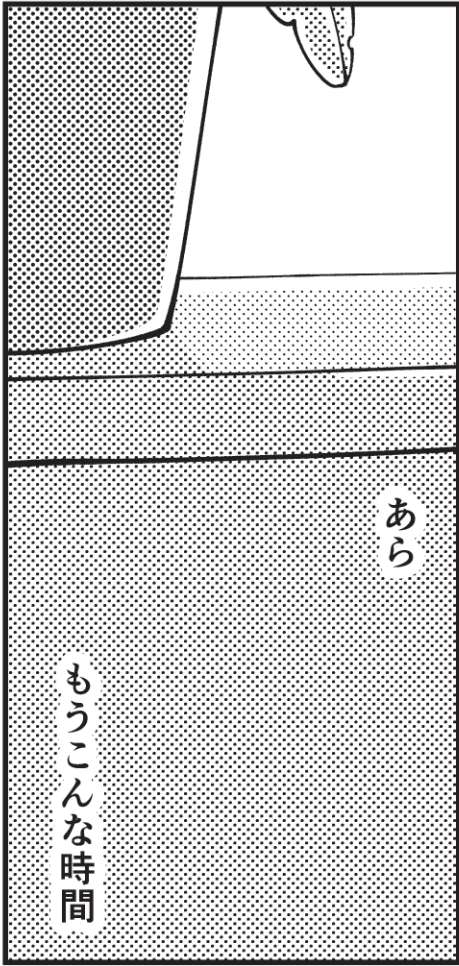
わたしが沼島に嫁いで来たのは
もう五十年も昔のことです

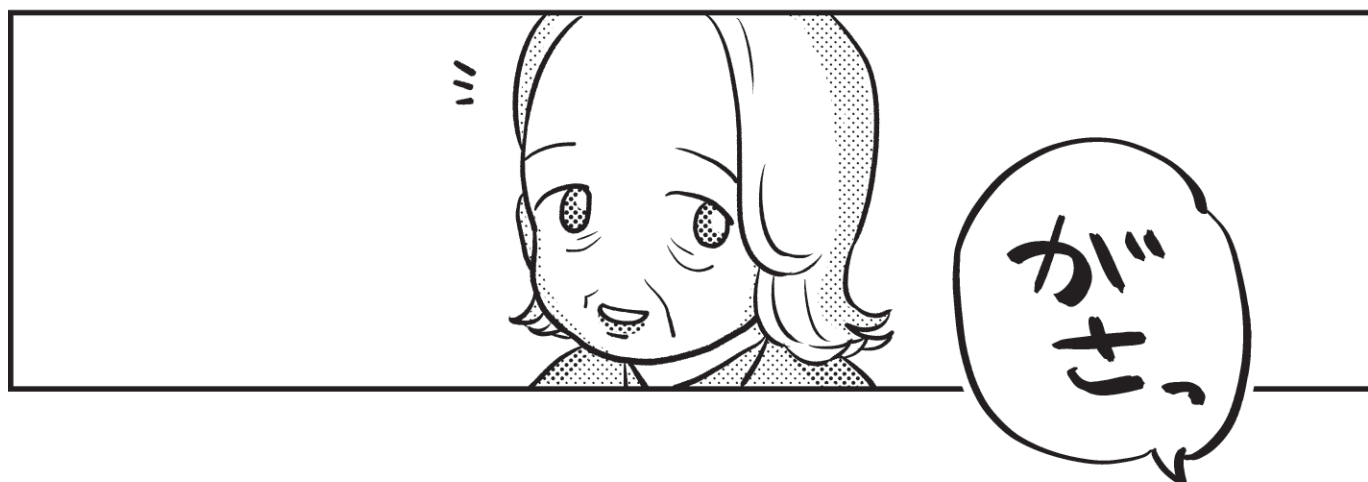
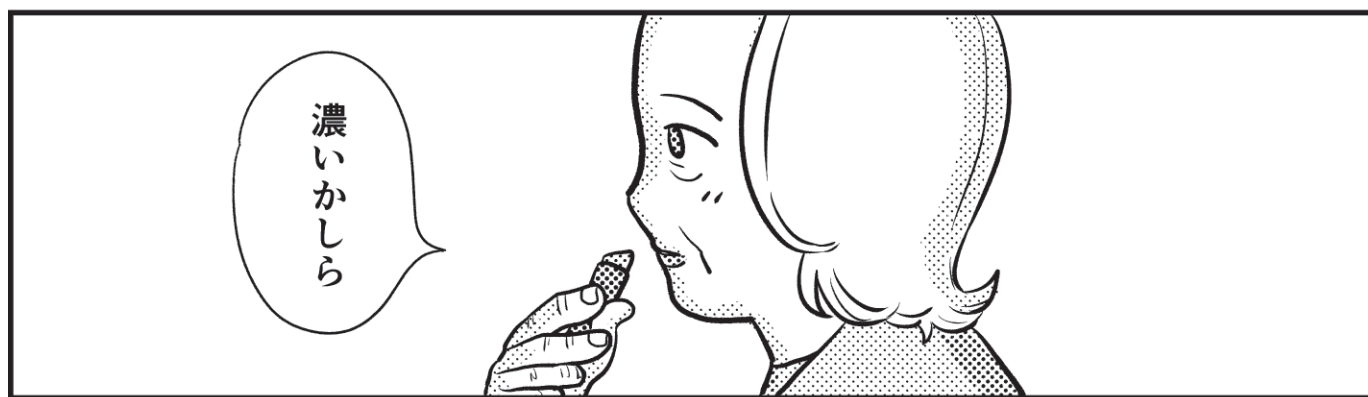
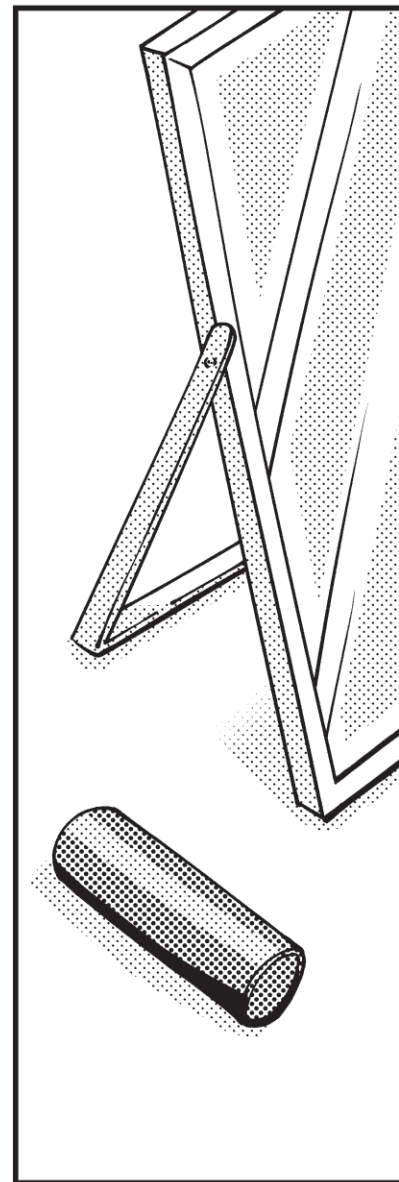
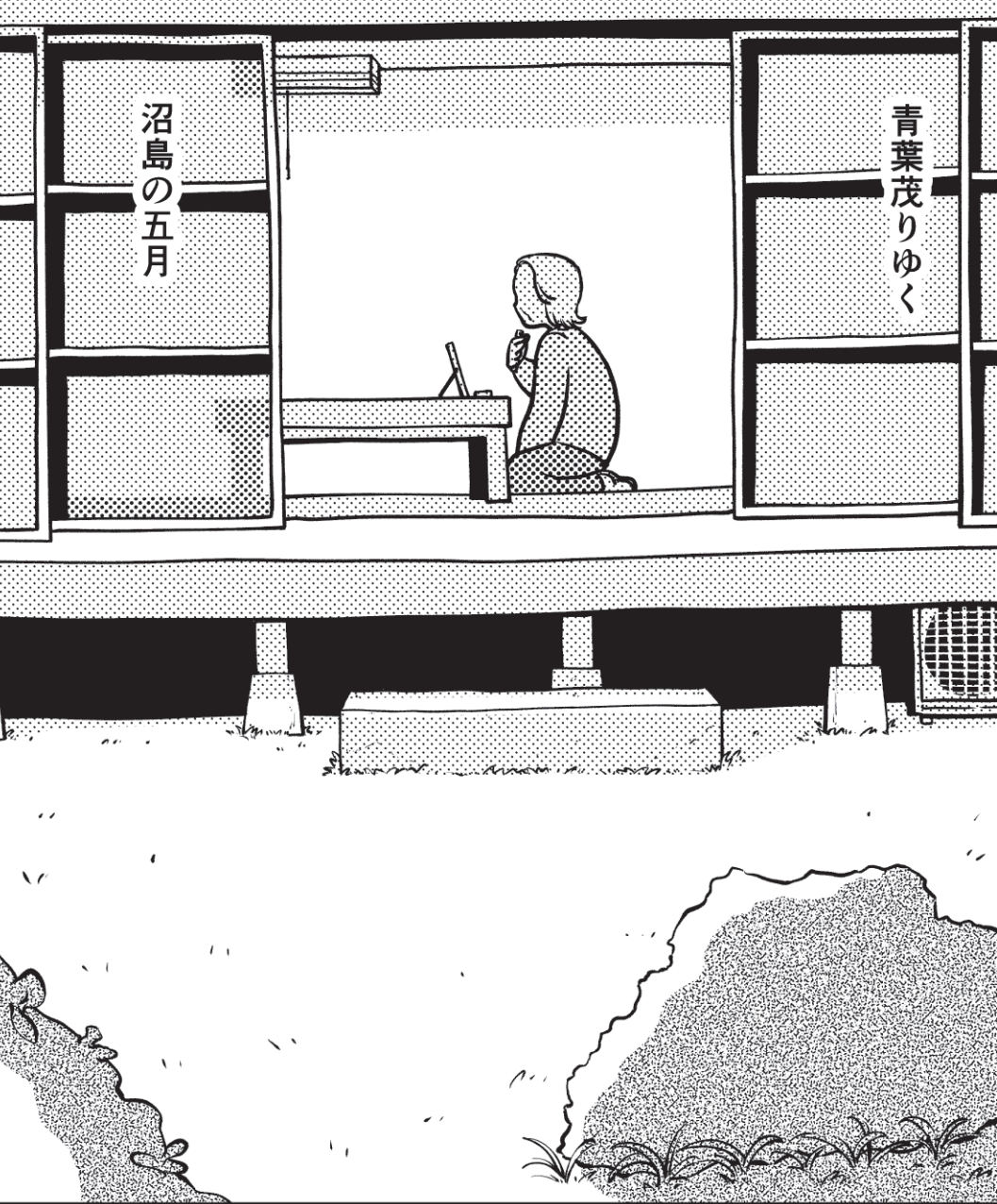
この島に訪れた日に見た
透き通るような青い海

そこに
点々と浮かぶハモ漁船と
上立神岩の雄々しく
そびえるさまは
なんとも美しく

それは
五十年たった今でも
変わっていません







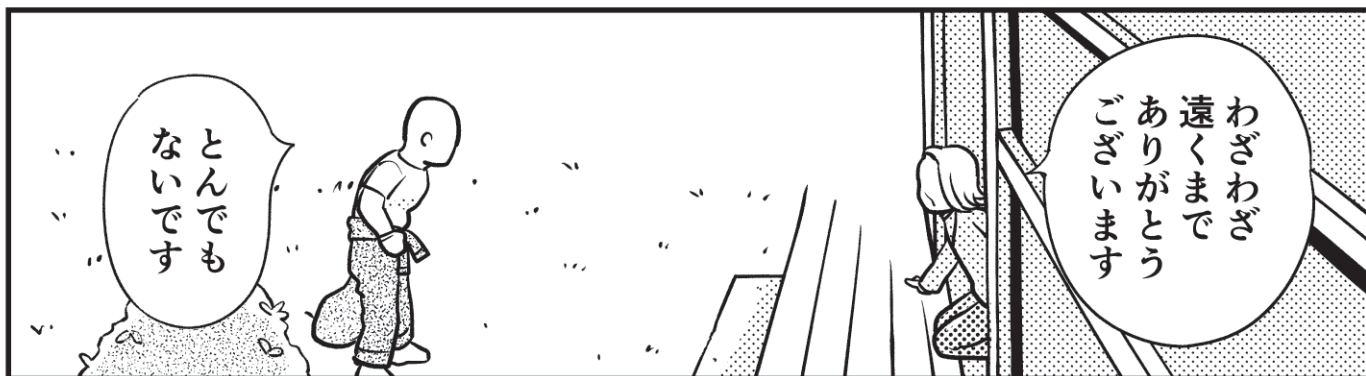
こんにちは
石坂さん

こんにちは
広瀬さん



わざわざ
遠くまで
ありがとうございます
ございます

とんでも
ないです



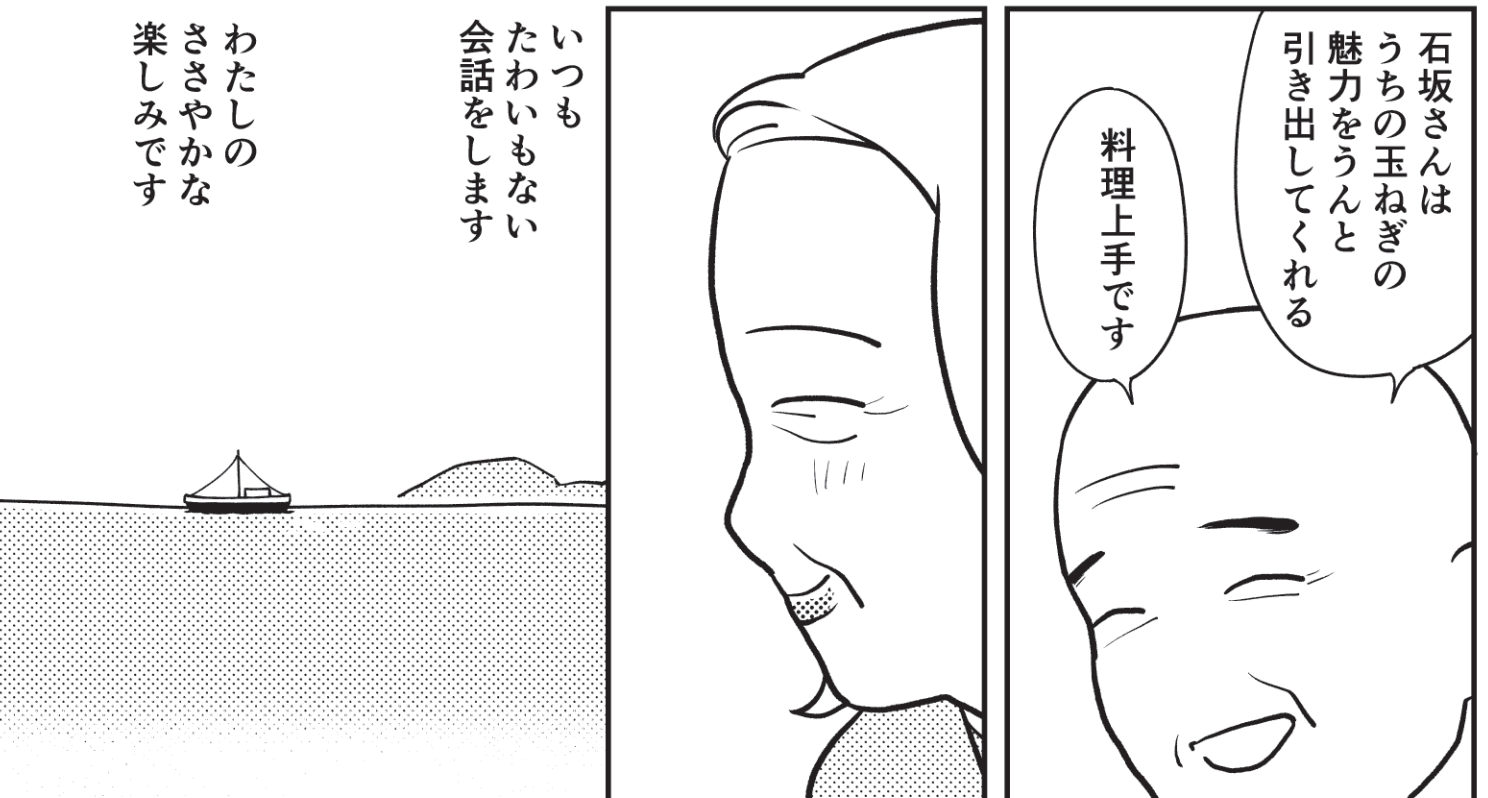
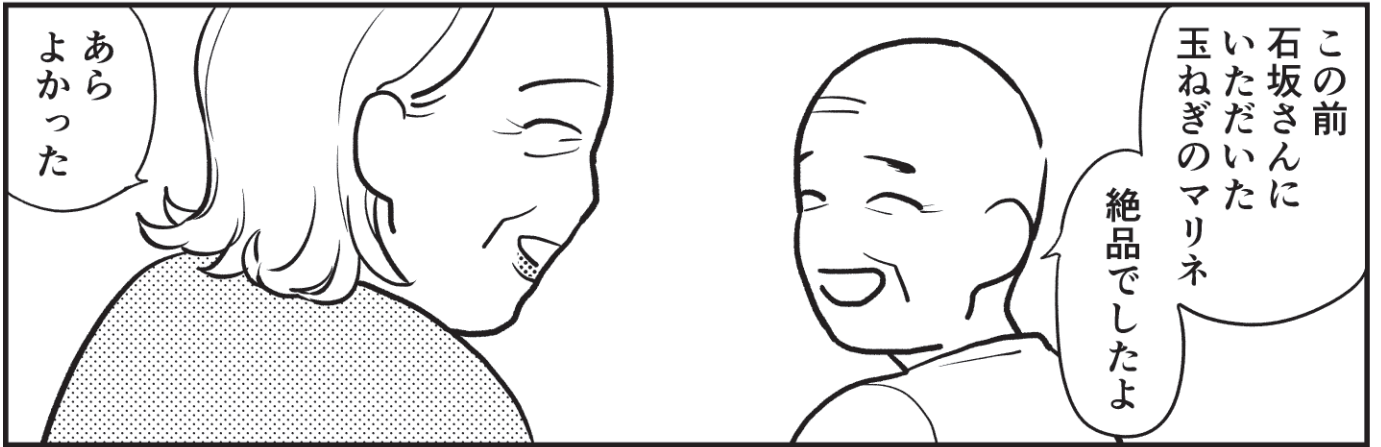
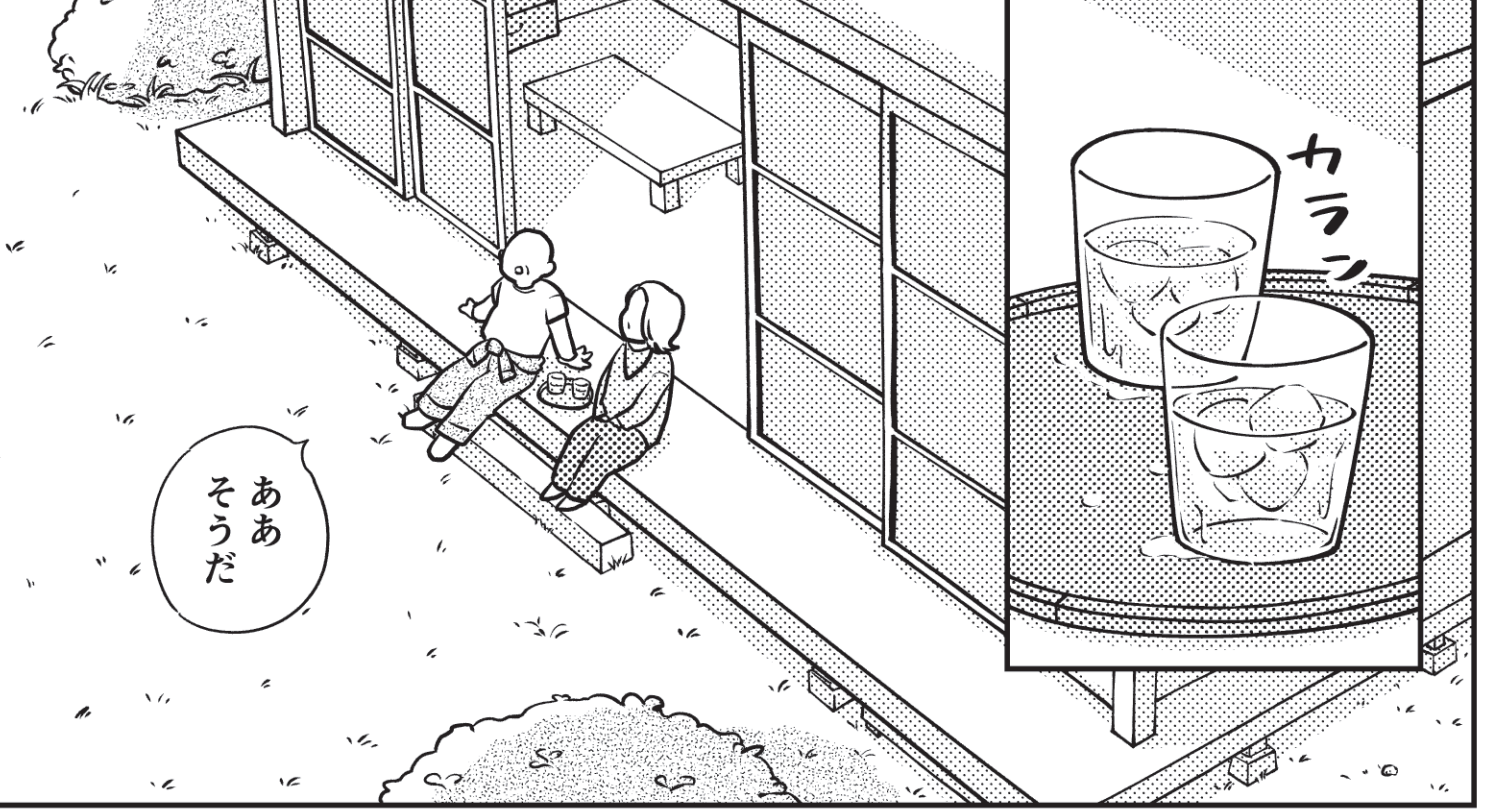
広瀬さんは淡路本島の
玉ねぎ農家です

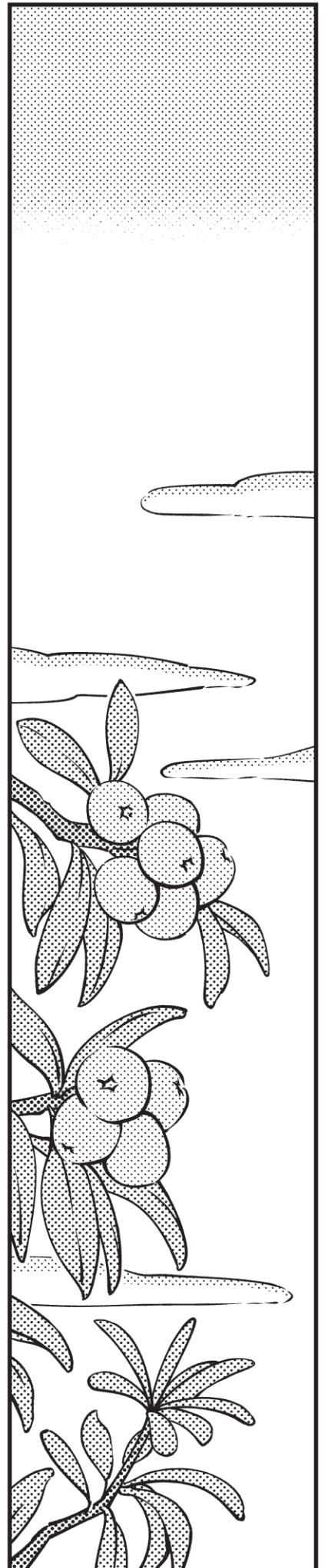
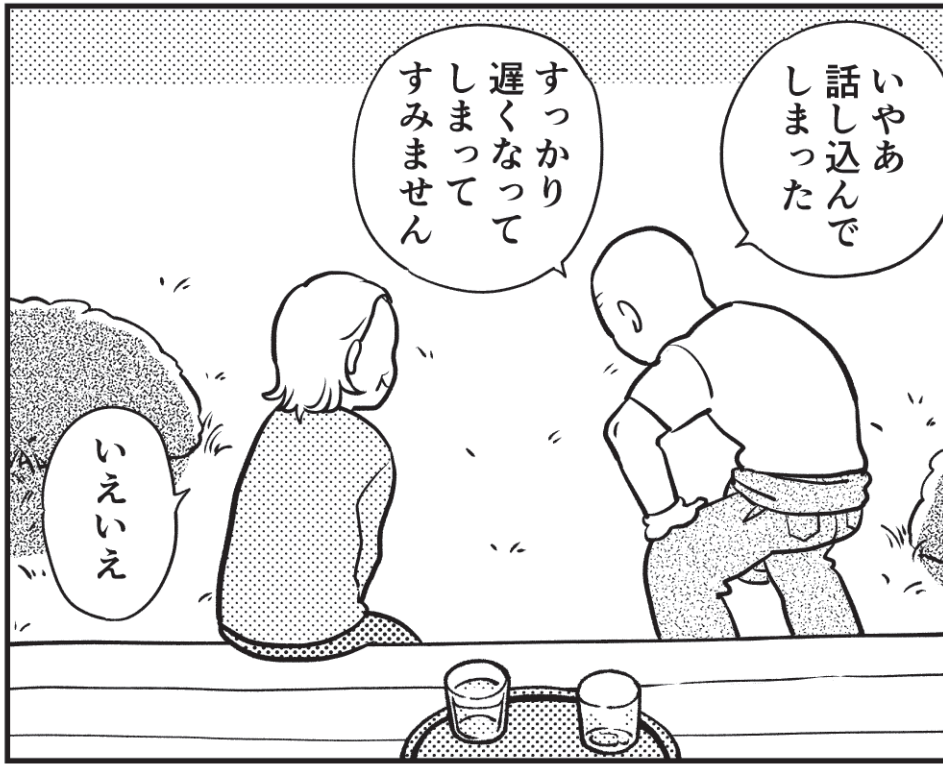
いつも沼島の家々に
玉ねぎを持ってきて
くださいます

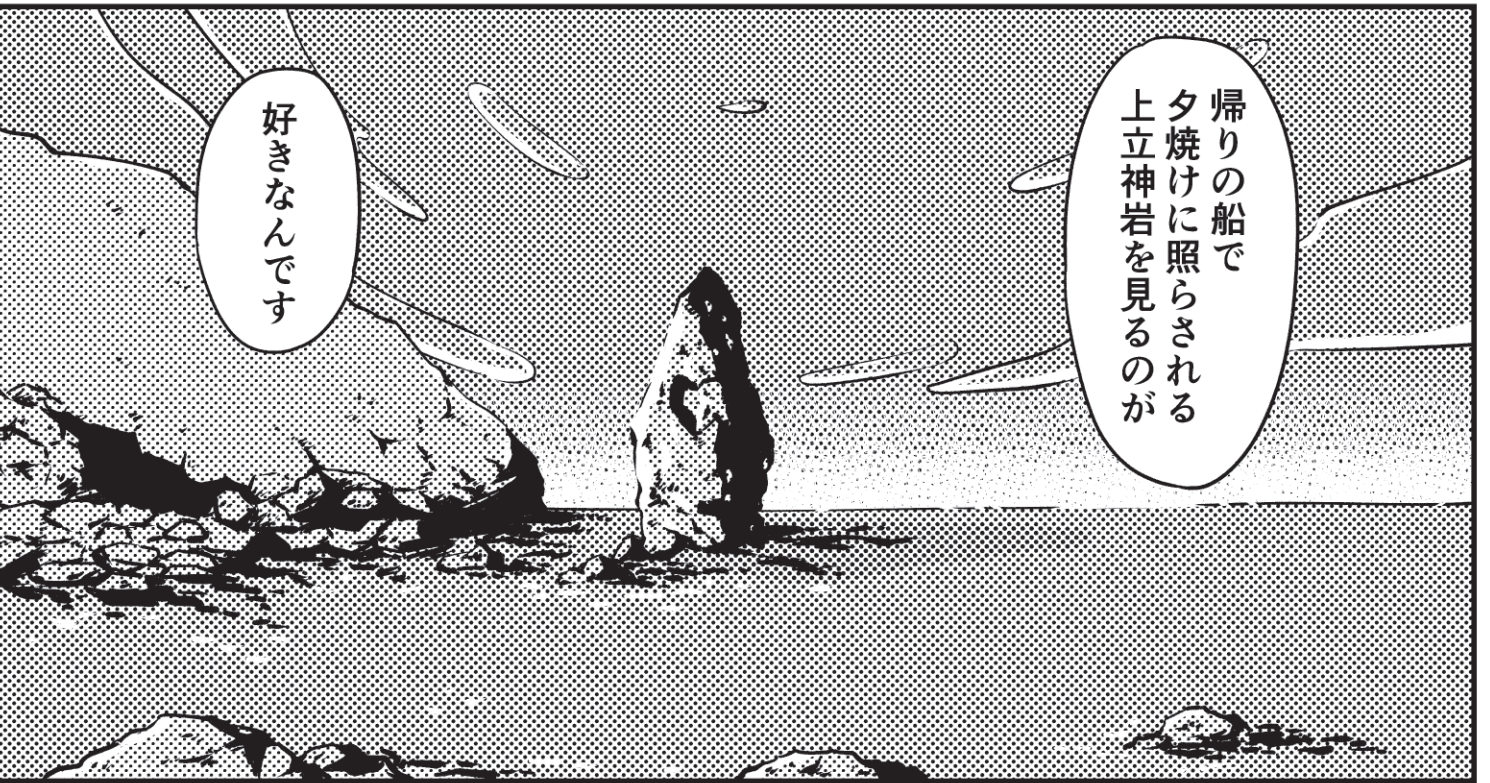
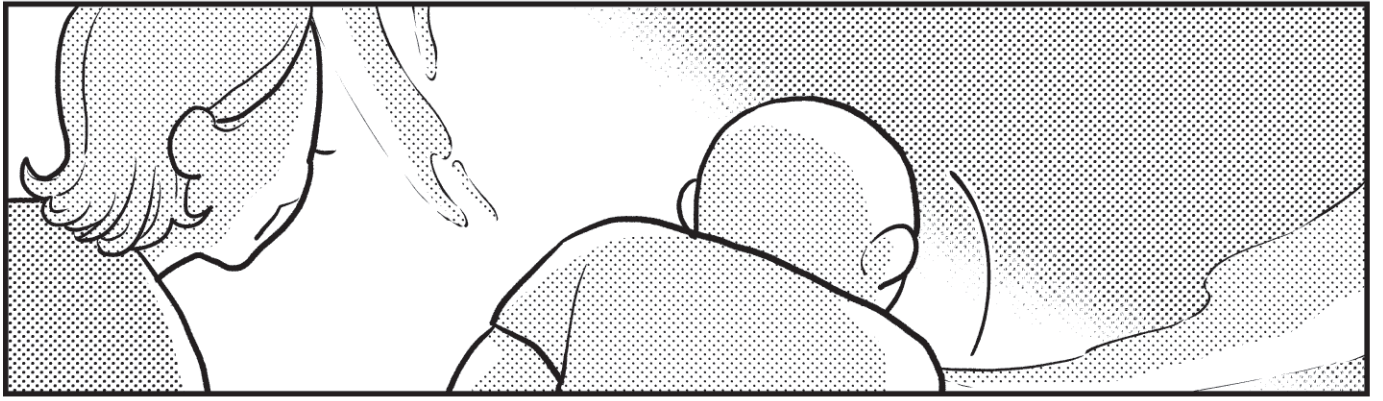
わたしは広瀬さんの
玉ねぎが大好きだから

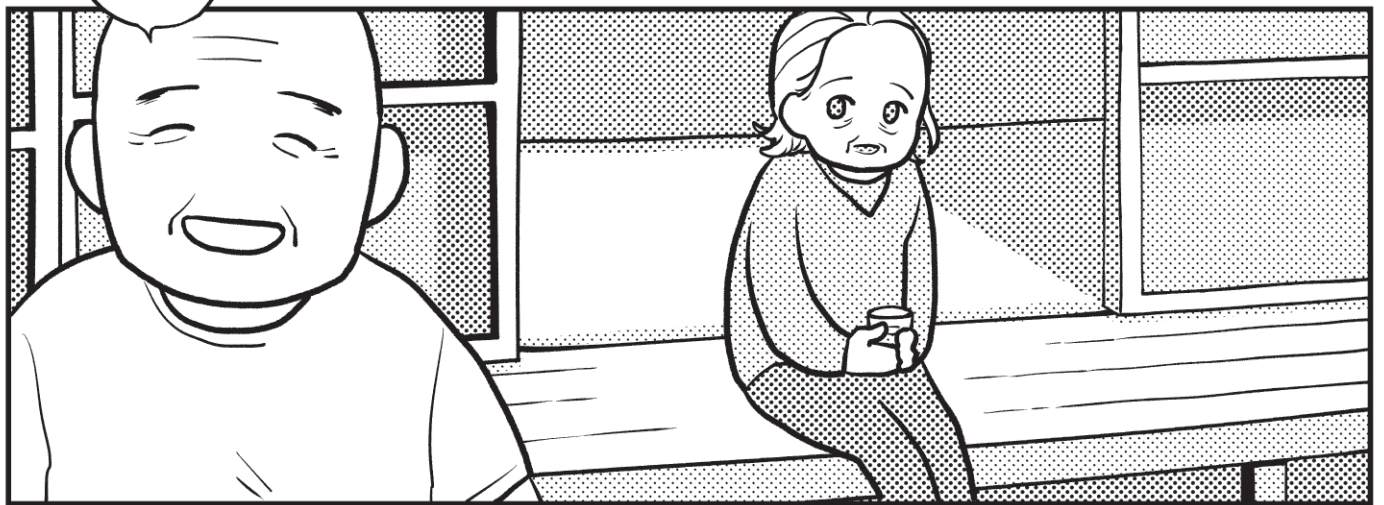
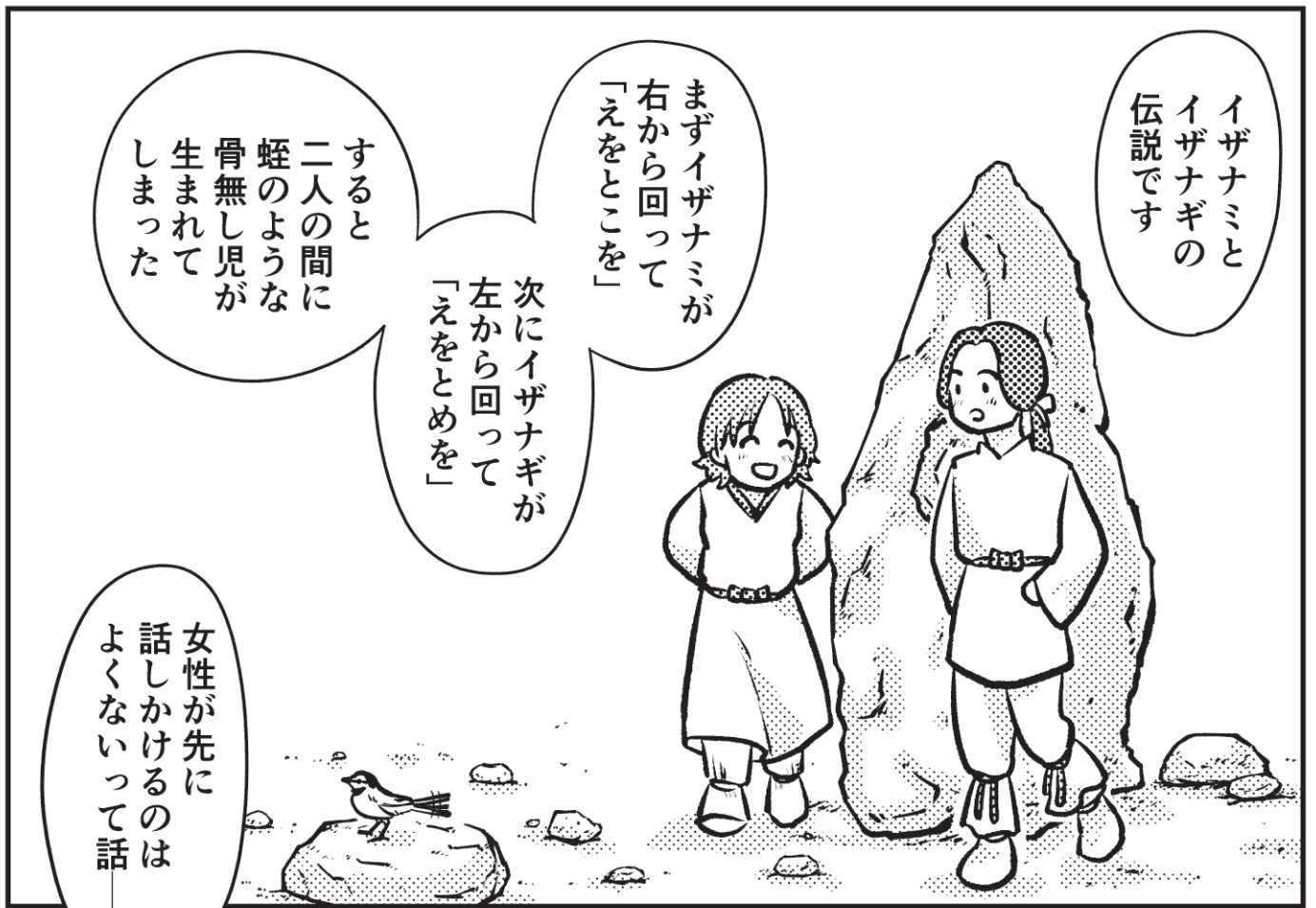
この日が楽しみで
たまらないのです

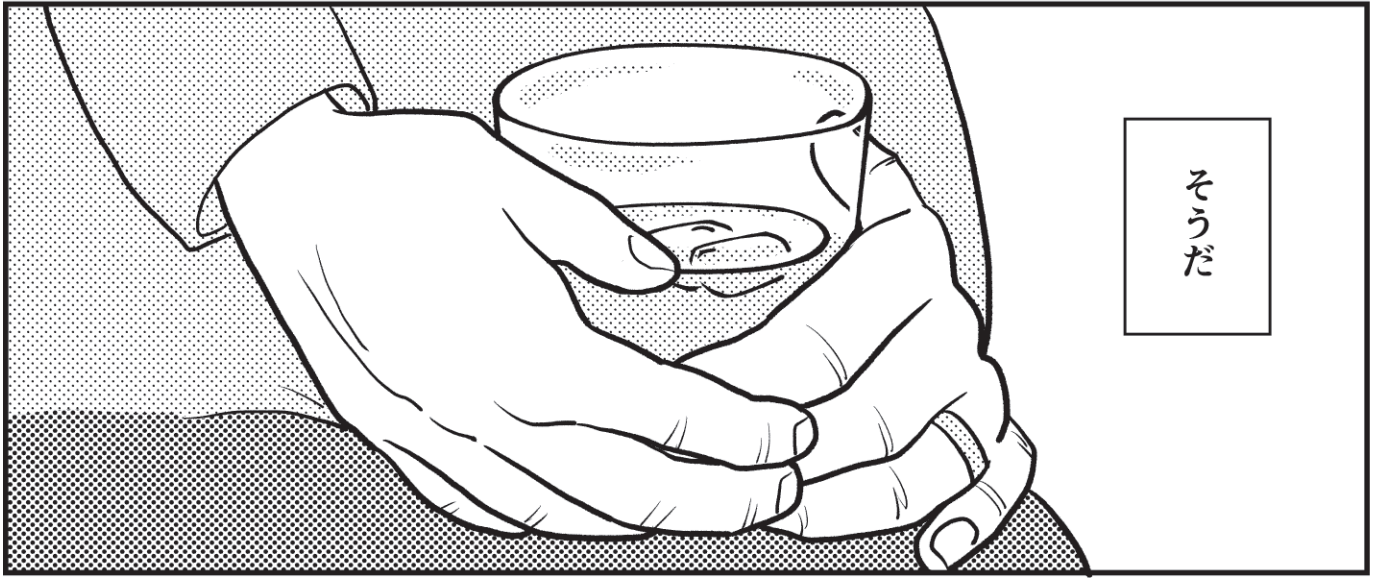












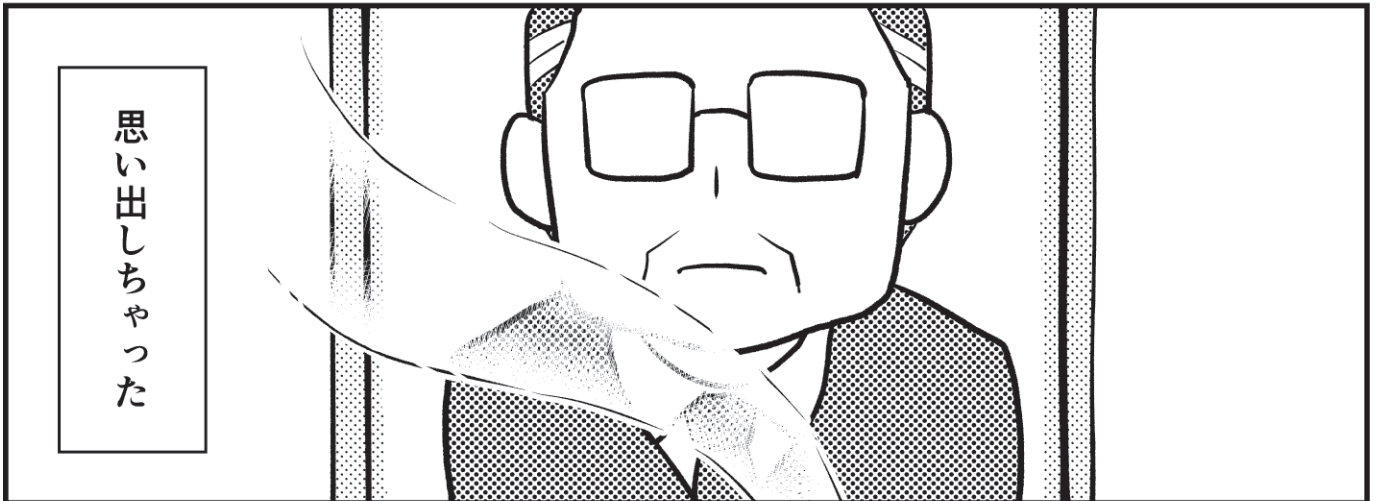
そうだ



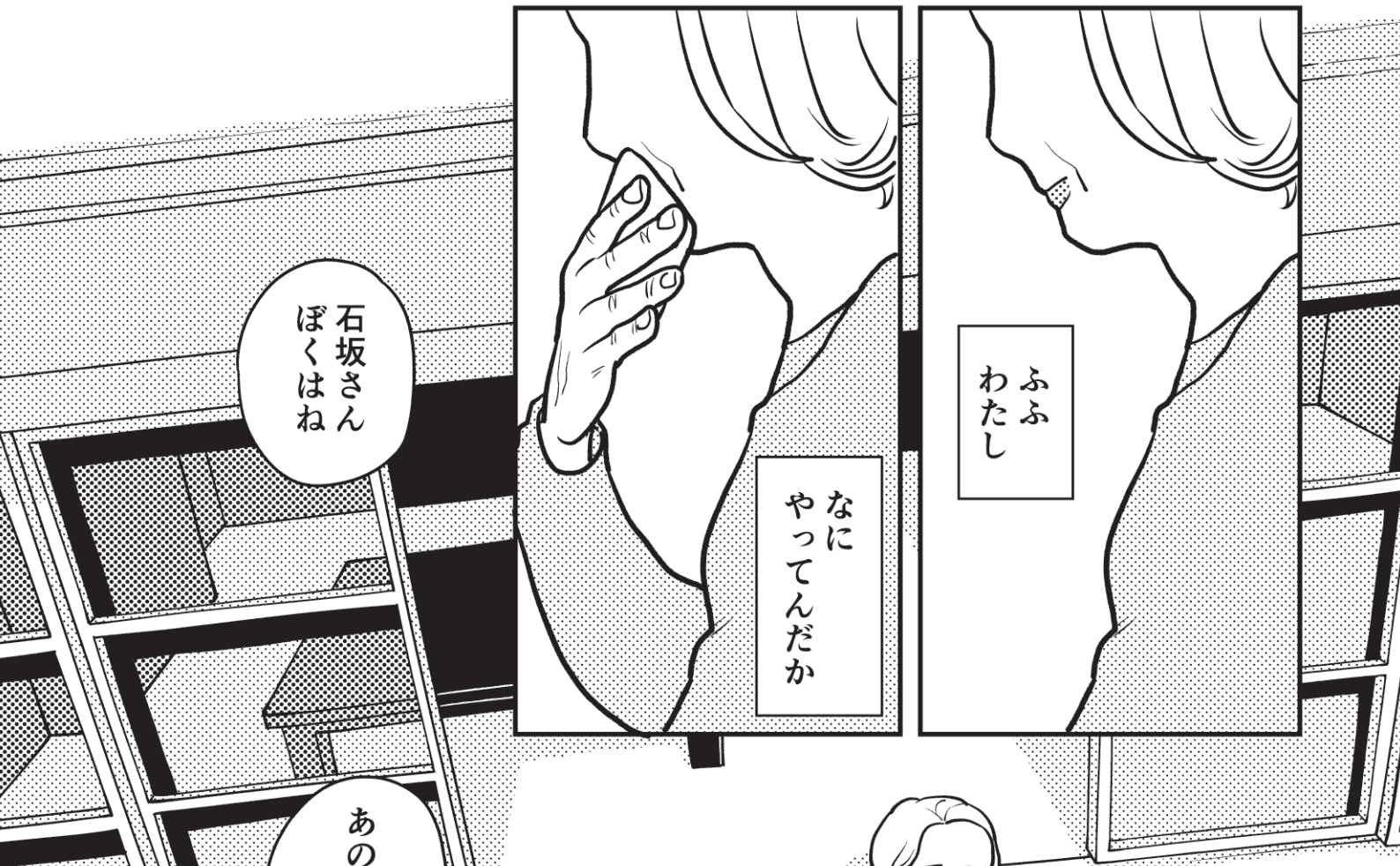
ヒルコが
生まれたら
どうするんだ



はしたないな



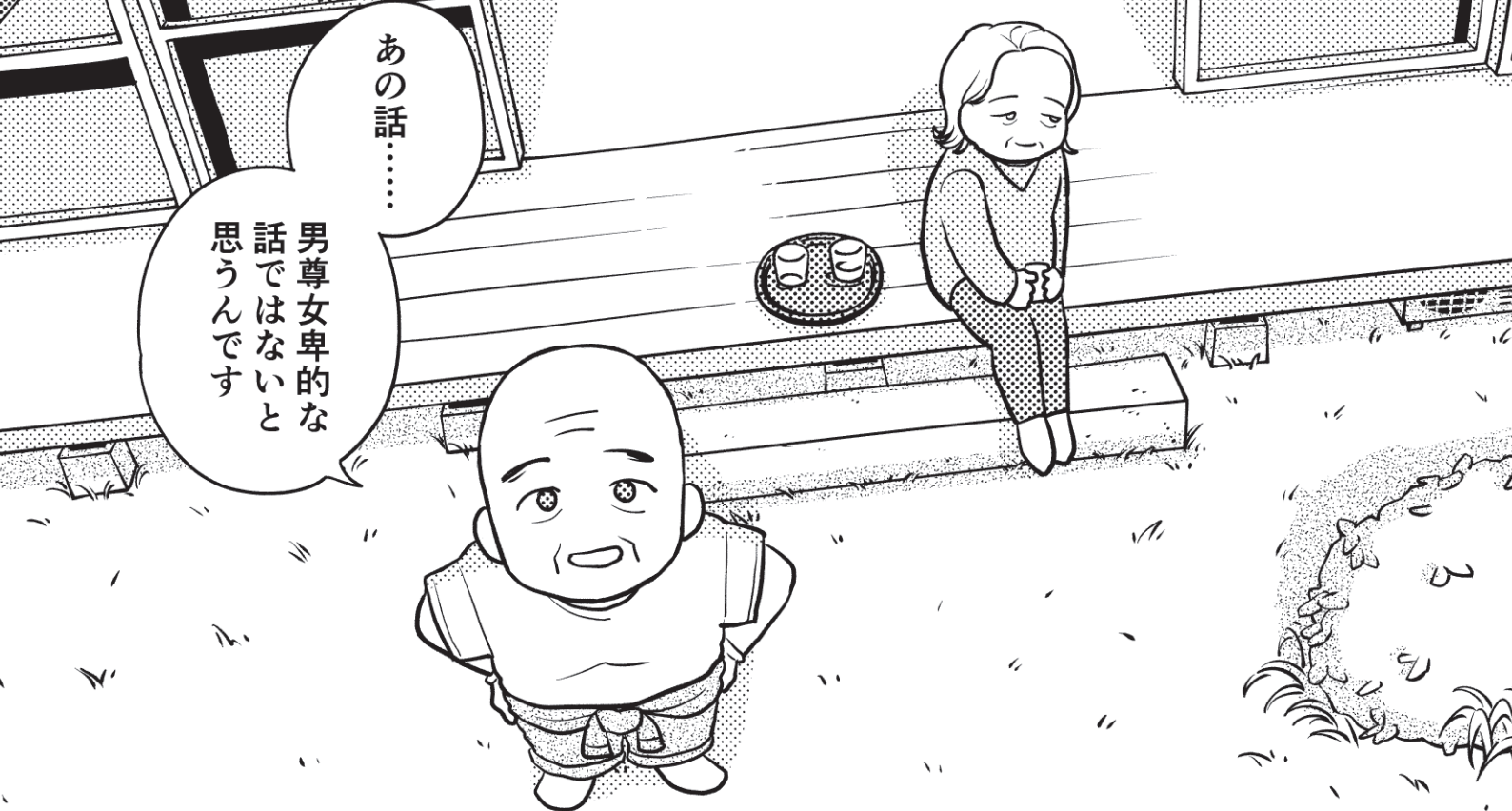
思い出しちゃった



石坂さん
ぼくはね

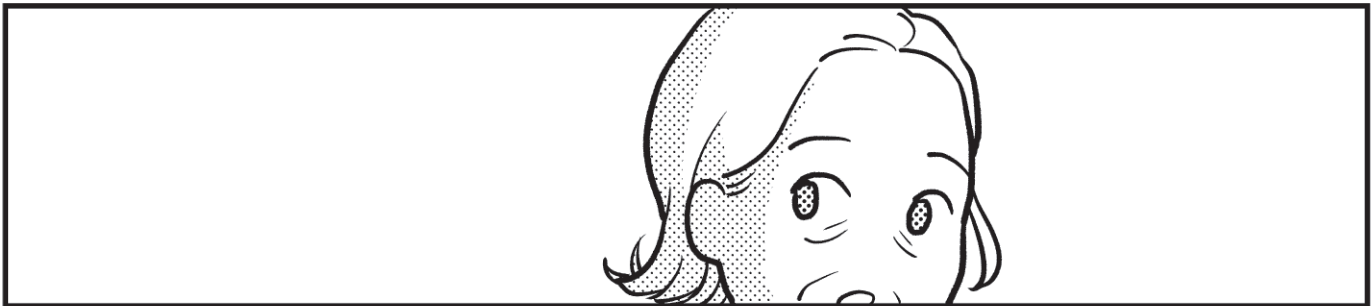
なに
やってんだか

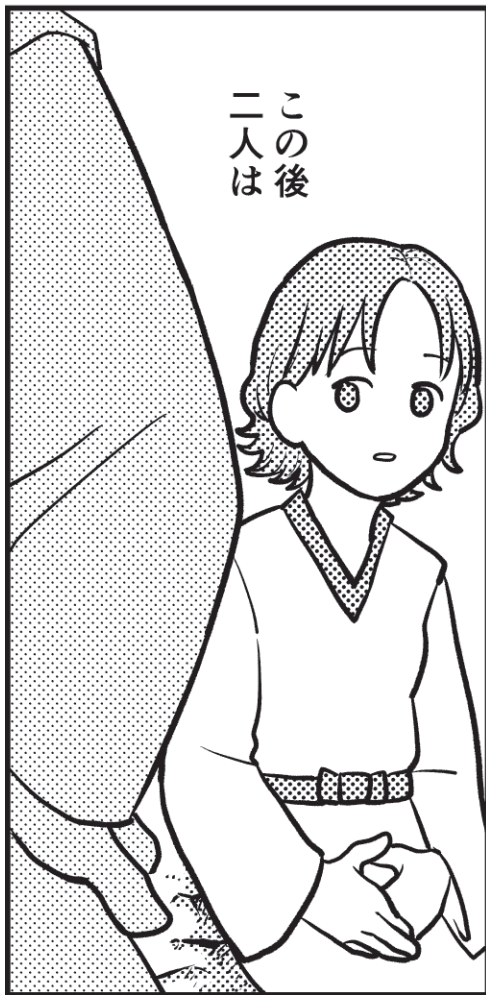
ふふ
わたし



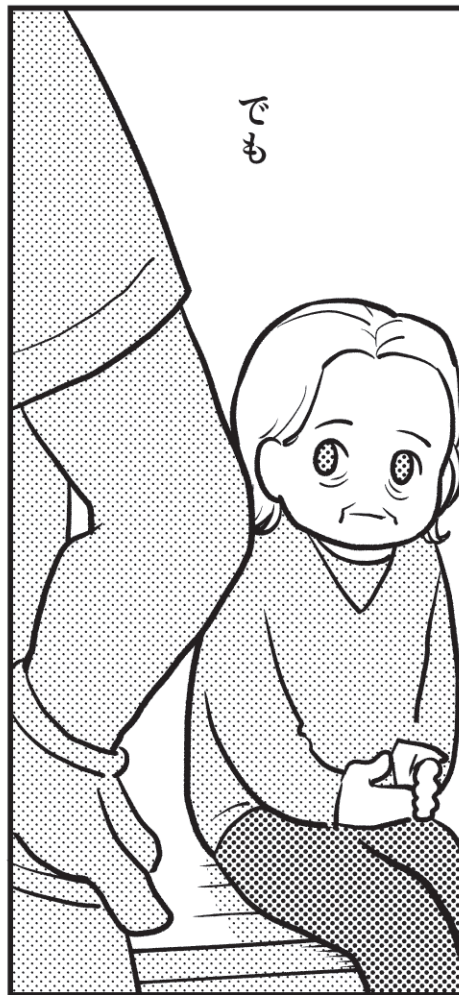
あの話……

男尊女卑的な
話ではないと
思うんです





この後
二人は



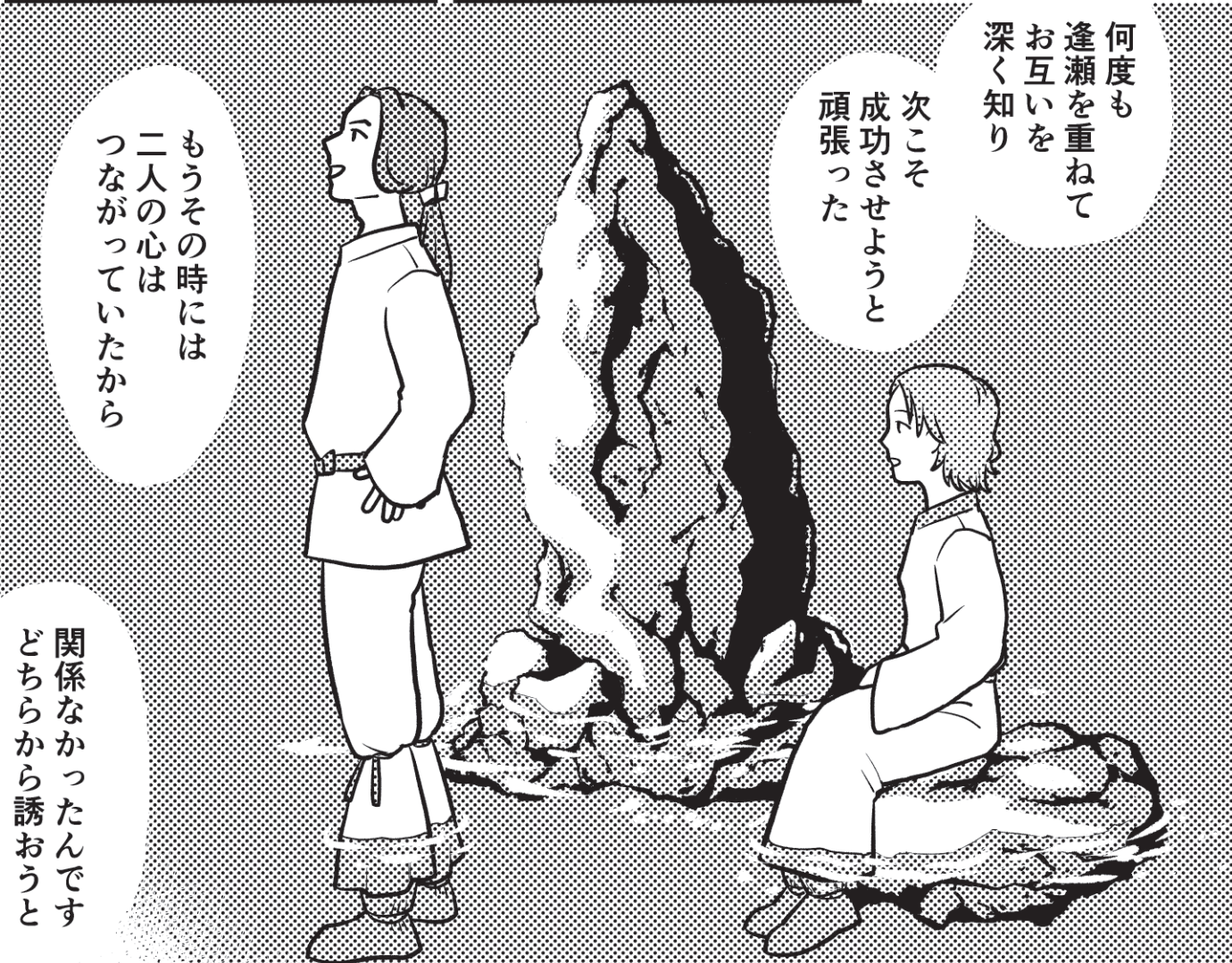
でも



最初の失敗は

二人は出会った
ばかりだったから

心が
つながって
いなかった

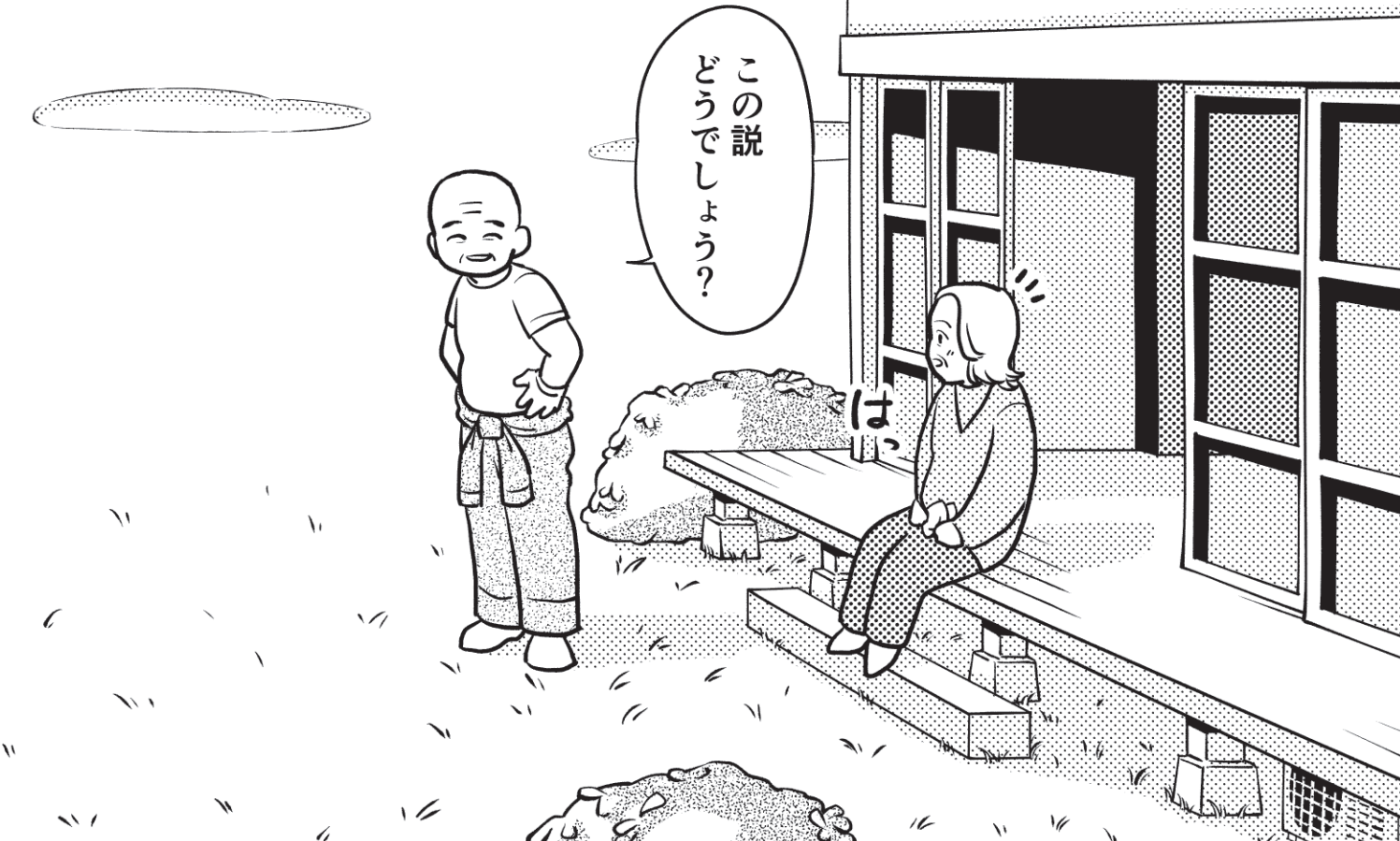
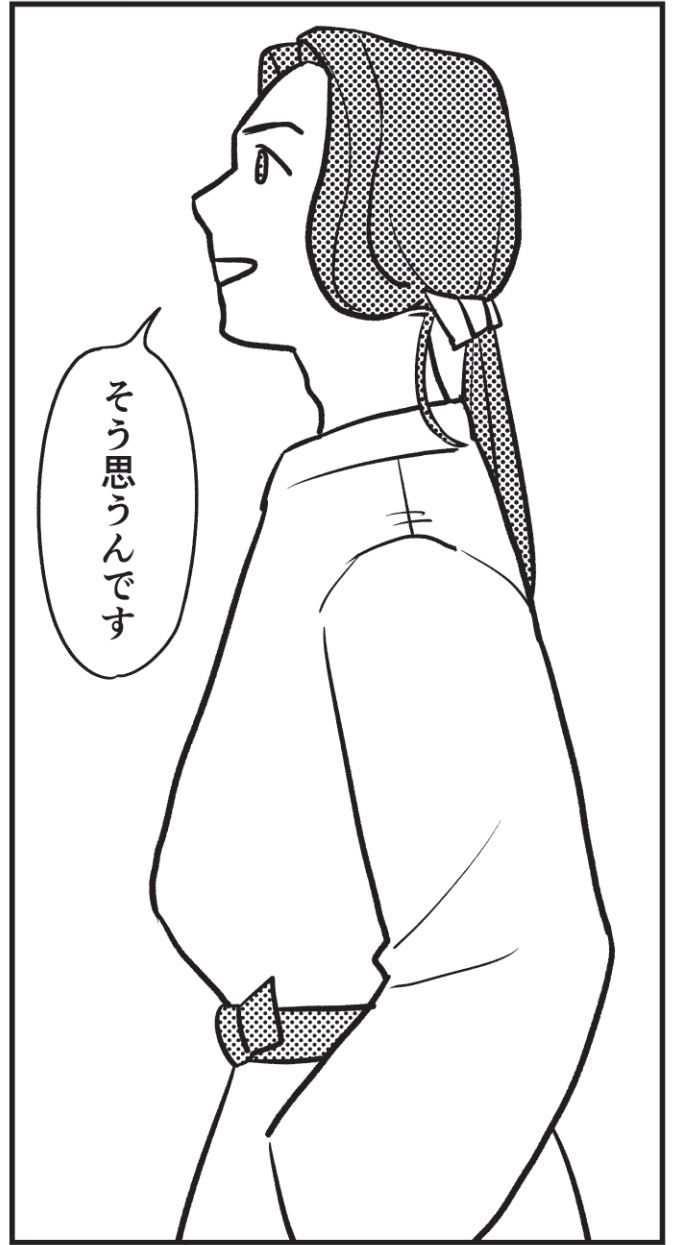


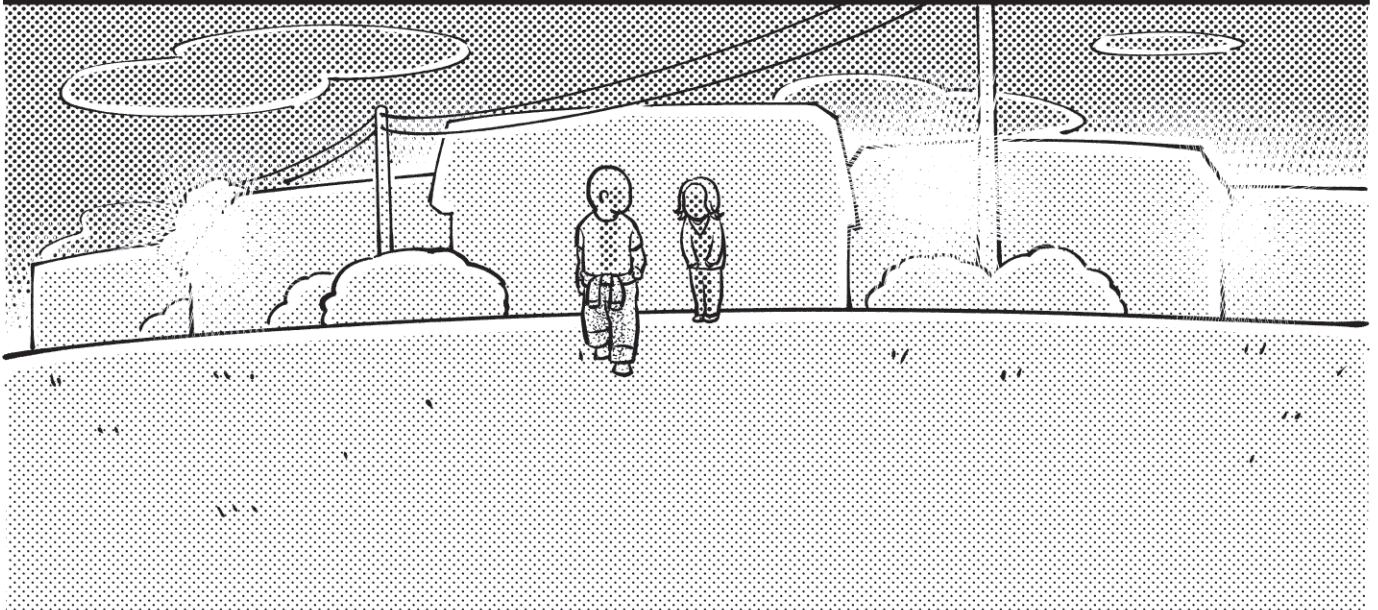
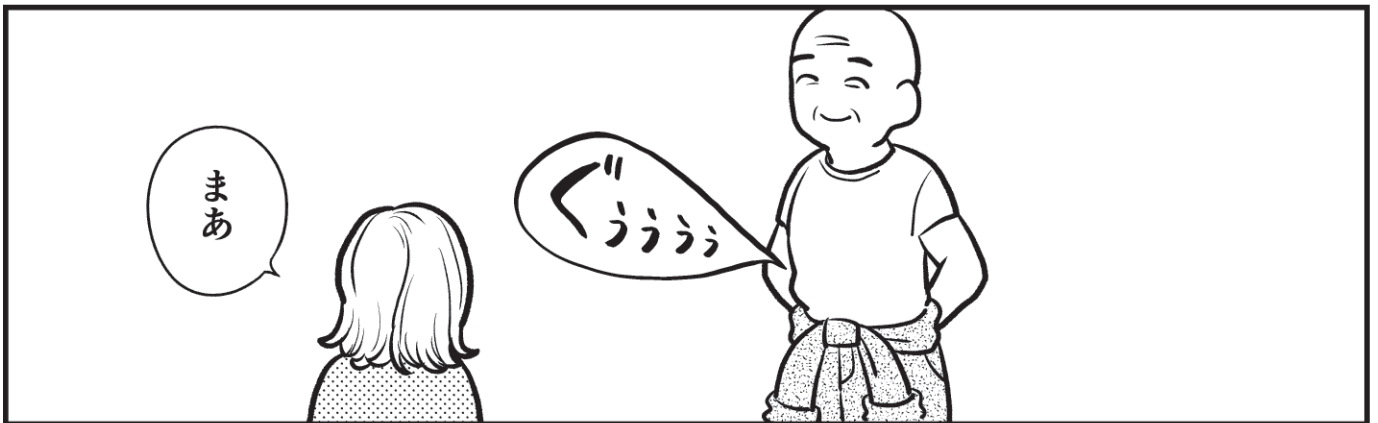
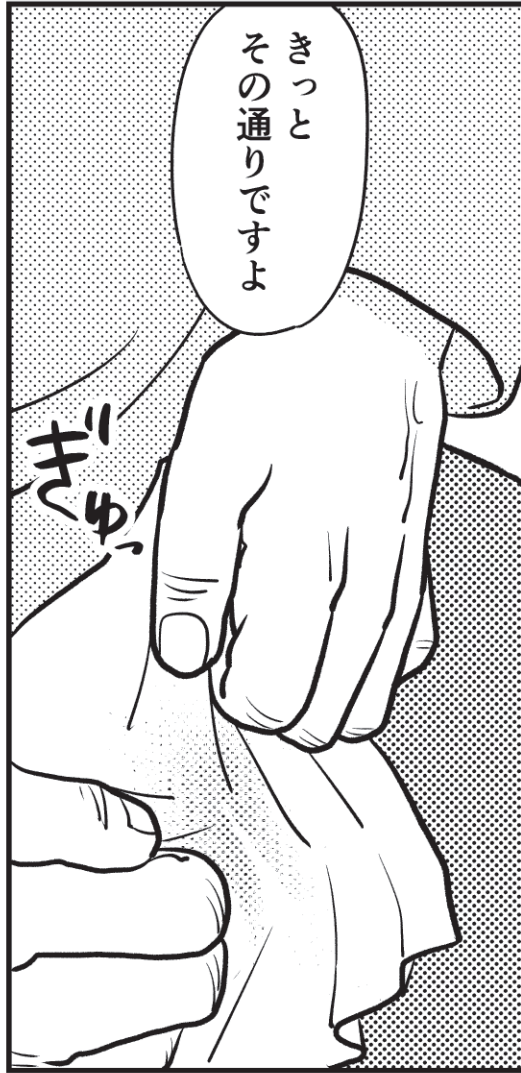
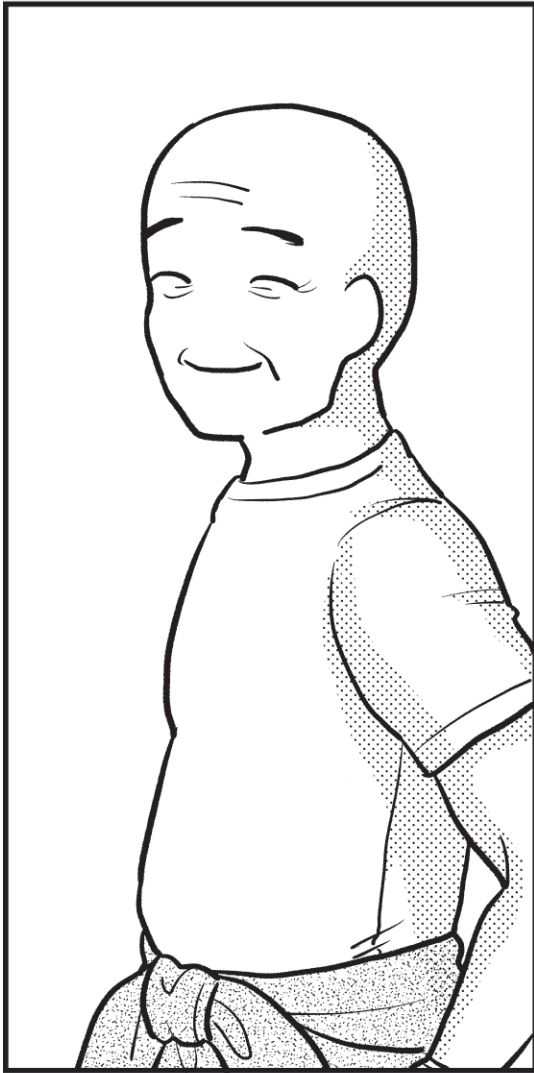
何度も
逢瀬を重ねて
お互いを
深く知り

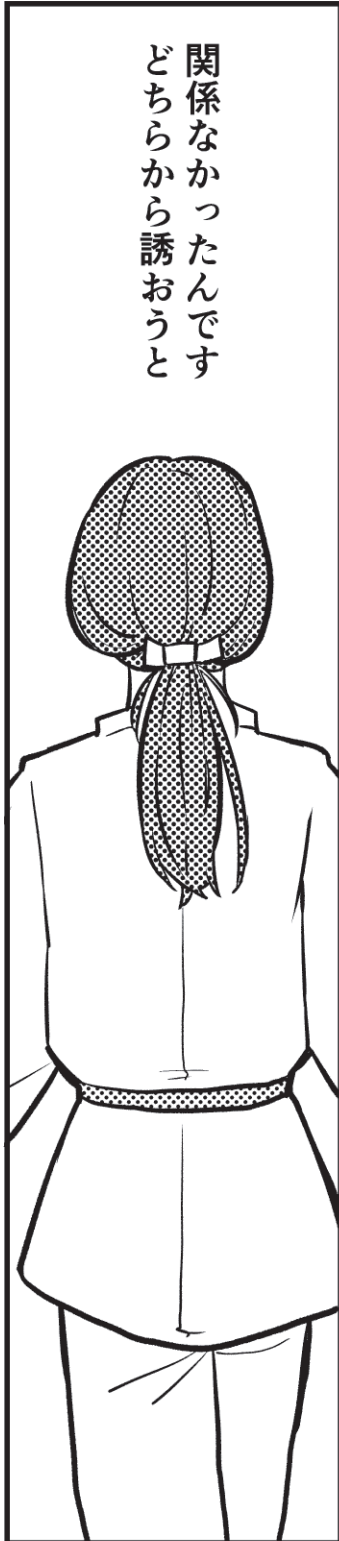
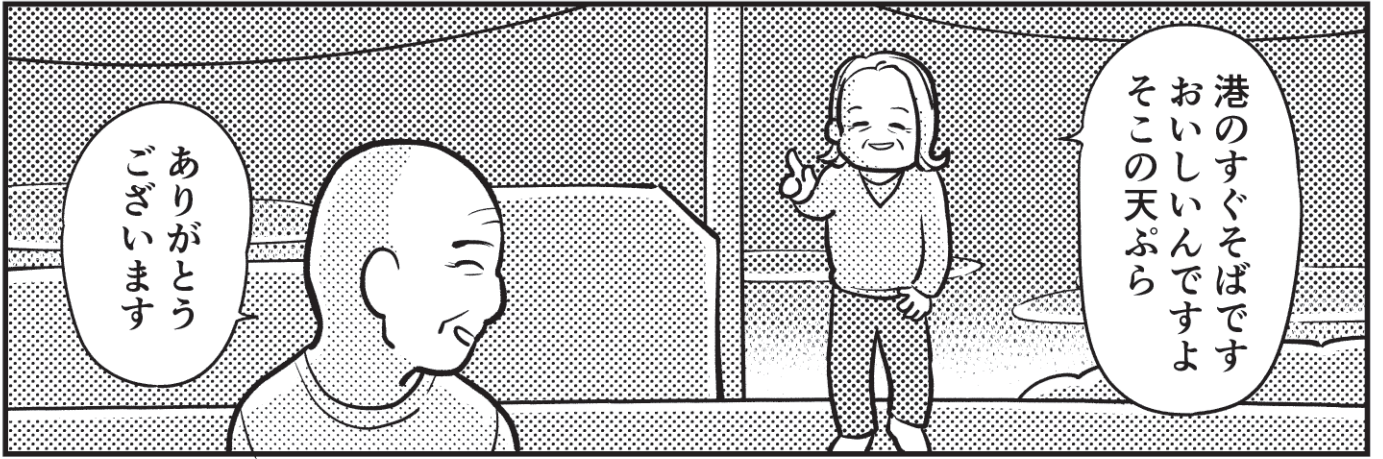
次こそ
成功させようと
頑張った

もうその時には
二人の心は
つながっていたから

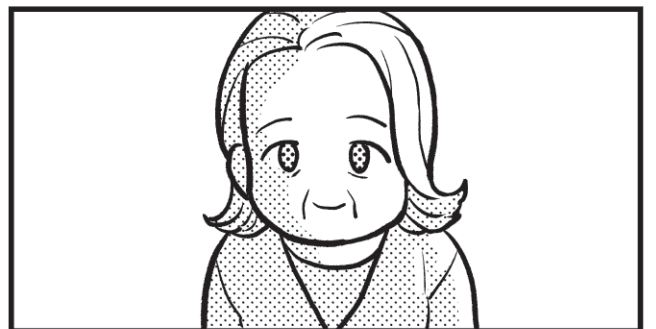
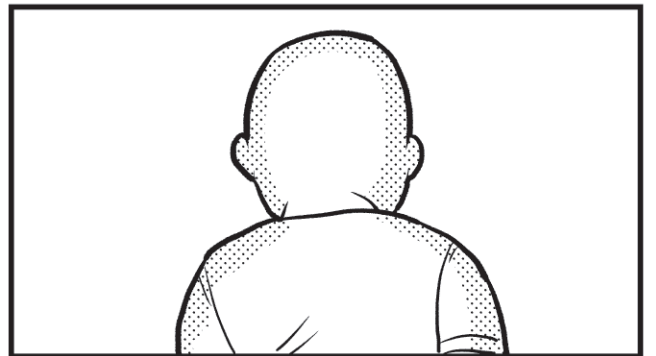
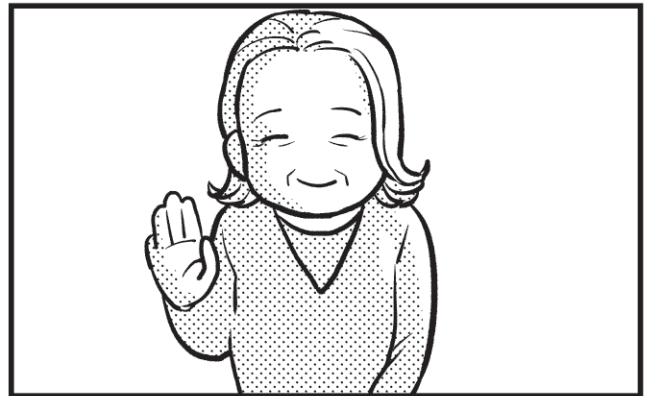
関係なかったんです
どちらから誘おうと

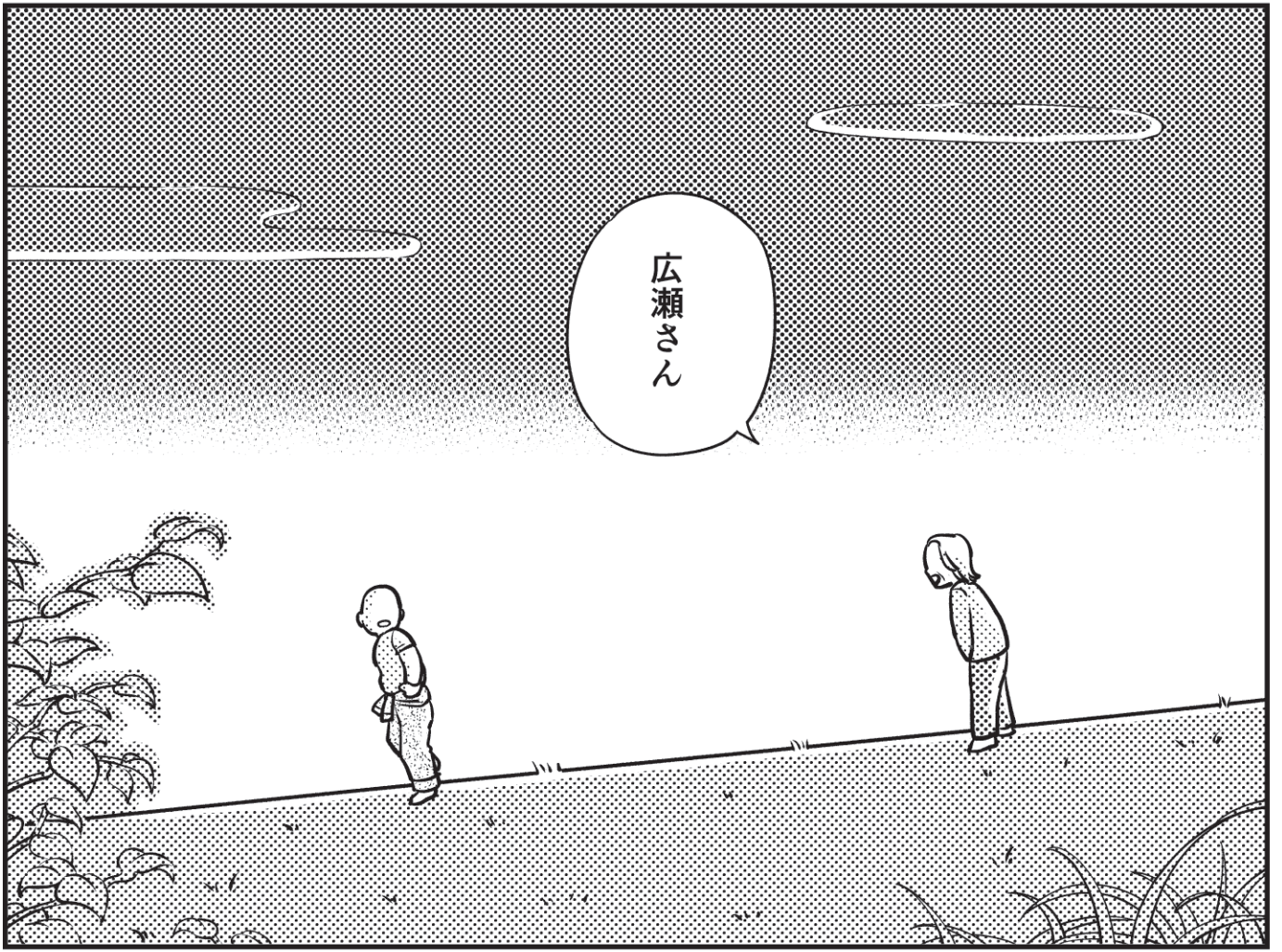






関係なかったんです
どちらから誘おうと





広瀬さん



良かったら
一緒に……



沼島のハモは
すぐおいしいんです



今朝
漁師さんから
ハモいただいた
いたんでした

忘れて
いました

